

石狩湾新港の未来を語る イベントが開かれました



「ザ・シンポジウムみなとin石狩湾新港」が10月5日、シャトルレーゼガトーキングダム サップロで開催されました。地域発展の核となる港湾について、さまざまな有識者からの意見を紹介し、道民の皆さんに北海道港湾の重要性や必要性を理解してもらおうことを目的としたイベントです。北海道経済連合会など7者による実行委員会が道内各地の主要港湾所在地で開催しており、本年度で31回目を迎えました。

今回のテーマは「石狩湾新港の可能性と未来を語る」でした。冒頭、加藤龍幸市長が「石狩市は石狩湾新港をワールドに、豊富な再生可能エネルギー（以下、再エネ）を看板とした挑戦を続けています」とあいさつし、再エネを活用したデータセンターの誘致や洋上風力発電をきっかけとした産業振興など、エネルギーの「地産地活」に向けた意気込みを述べました。続く講演やパネルディスカッションでは、大消費地である札幌市に近く、大量の荷物を運べる海上輸送が可能な石狩湾新港は、道内の重要な物流拠点となっていることが紹介されました。

ほかに、再エネの発電とその活用による産業振興に向けて期待の声が多く上がりました。「物流業界も脱炭素が求められる時代になり、再エネが活用できる石狩湾新港は、より一層物流拠点として優位性が高くなる」といった意見も出ました。

※地産地活＝地域で生んで地域で活用するという意味

講演より

洋上風力の石狩湾沖展開と水産業の協調的発展

（一社）海洋エネルギー漁業共生センター 理事 渋谷正信氏

洋上風力と漁業の共生に向けて、国内外にある洋上風力発電所の海中を現地調査しています。近年の気候変動による海藻量の減少に伴い、魚の集まる場所が減少していますが、洋上風力発電所は魚たちの新たな居場所となっています。

設置から1年が経過した長崎県五島市の洋上風力発電機の海中を調査した際には、発電機の基礎部分に発生したサンゴをエサ場や住処とし、多くの魚が集まっている様子を確認しています。

地元の漁師が普段漁をしているエリアと発電機周辺で魚の量を比較したところ、多くの魚がいたのは発電機周辺でした。14基を設置する洋上風力発電所が建設されている石狩湾新港についても、たくさんの魚が集まってきたり、魚介類の養殖を展開できる可能性があると考えています。



石狩市では、さらなる洋上風力の展開が見込まれています

「一般海域」での事業に向けた再エネ海域利用法について

2段階を経て促進区域に

促進区域

地域での協議がまとまり、国から促進区域に指定されれば、一般海域での洋上風力発電事業が可能に!

今はココ

有望な区域

※石狩市沖は「有望な区域」

促進区域指定に向け、法定協議会において関係者間でさまざまなことを協議する段階

準備区域

(一定の準備段階に進んでいる区域)

石狩湾新港港湾区域内で建設していた(株)グリーンパワーインベストメントによる14基の洋上風力発電所の営業運転が12月から始まる予定です。石狩から国内の脱炭素に寄与するこの事業に対して期待が高まっています。

加えて石狩湾では、沖合の「一般海域」と呼ばれる海域でも、さらに大規模な洋上風力発電事業が検討されています。

今回は、2030年代の実施を見込む一般海域での発電事業に向けた現在地をご紹介します。

国内の洋上風力を推進する「再エネ海域利用法」

国内の洋上風力発電事業推進に向け、事業者が海域を利用するためのルールを取りまとめた「再エネ海域利用法」という法律が2019年に施行されました。

一般海域での事業は同法に基づき、漁業者との合意や周辺環境の状況などに応じて国から「促進区域」に指定されることで、着手できるようになります。促進区域指定までには、「準備区域」「有望な区域」と2つの前段階があり、石狩市沖は促進区域にあと一步と迫る「有望な区域」となっています。

原発1基分の発電が期待される石狩市沖

石狩市沖は、北は浜益、南は石狩湾新港周辺までが事業想定範囲となっており、原発1基分に相当する発電量が見込まれています。今後、促進区域指定に向けて、国と北海道が関係漁協や自治体、有識者で構成する法定協議会を設置し、石狩市沖での洋上風力の是非に加え、実施する場合に漁業や地域環境に悪影響を及ぼさないよう事業者に求める事項などを協議することになります。

地域の発展に貢献する「地域共生策」の検討

法定協議会では、前述の事項に加えて発電事業者に求める「地域共生策」を検討します。

地域共生策とは、洋上風力とは別に発電事業者が地域に対して提供する事業のことです。国内の先行地域では漁業支援のほか、地域産品の販路拡大、教育の充実、観光振興など、地域の発展や課題解決を目指す事業が考えられています。市としても、市民の皆さんの生活をより豊かにする地域共生策を提案できるように、洋上風力の周知活動や地域課題の整理に取り組めます。

子ども向けの周知活動に取り組んでいます

2030年代の大規模な事業を見据え、その時代を担う市内の小・中学生向けに洋上風力を周知しています。石狩中の1年生は市の「まちづくり出前講座」を活用して洋上風力や市の再エネ活用策を学び、9月の文化祭で発表しました。10月には、港湾区域内で洋上風力発電事業を担う(株)グリーンパワーインベストメントが花川小の5年生を発電所の建設現場に案内し、児童たちはスケールの大きさに驚きの声を上げていました。

